

付録 別表3 PMAA を反復投与した一般毒性試験（短～中期毒性）結果の概要

動物種	ラット	性	雌雄
系統	Sprague-Dawley		
投与方法	強制経口投与		
投与期間	28 日間		
投与量	0、0.12、0.3、1.2、5.0 mg/kg/day		
動物数	10、5、5、5、10 匹		
主な影響	<p>5 mg/kg/day 群 雌雄：摂餌量↓、クロール↓、肝臓の胆管増生、グリソン鞘の炎症性細胞浸潤 雄：トリグリセライド↓ 雌：総ビリルビン↓</p> <p>1.2 mg/kg/day 群 雌雄：影響なし</p> <p>0.3 mg/kg/day 群 雌雄：影響なし</p> <p>0.12 mg/kg/day 群 雌雄：影響なし</p>		
回復試験	14 日間（対照群及び 5.0 mg/kg/day 群の雌雄各 5 匹）		
回復性	5 mg/kg/day 群の雄で胆管増生が回復期間終了時にもみられたが、その他の変化については回復傾向又は回復性が認められた。		
備考	<p>一般状態や体重、血液学的検査、尿検査、剖検のいずれにも影響はみられず、造血系器官である骨髄、脾臓にも異常はなかった。 DPAA よりも毒性は低いと考えられた。</p>		
出典	環境省 (2011): ジフェニルアルシン酸 (DPAA) の毒性試験報告書 (第 2 版)		